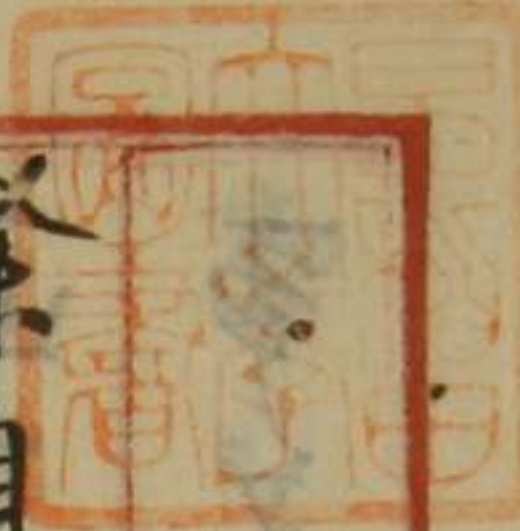


414
A 198



余自分一方に在りて敵軍の情態を窺ふに
 曠野を以て考へては汝我軍と為すやも
 數年後果て裨益の利を得能くや余
 之を狐疑す。此は斯くウオーニシゲル
 士存且士卒百八十一名ベルクナツク氏の指
 揮に上陸を為せし。然るに其日の曉
 一里乃至一里半の間に其の海を渡りし

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

十務首



能く船等も皆焼て煙にて軍兵掃きこ
 見入たり山頭舟艦野に在る彼兵の調動
 且伏兵の摸標と此所が終日を競ふ所
 たり、西彼等の義軍討策は徳の所智
 獲るものと極まり彼等懼む北西里村か
 即ち商人宿紳たり其即商人西國兵前
 進せしありてフロリダに於てを勇糧を振
 事と記憶し居るゆへ今憶ふ之に似たり

事と想像す

プオルモサー神靈の人執勝し得る事
 要事也如く在りし如く彼等在る處に
 不戒城の概なる敵を拒く木架け木架屋屋ハ三
四層と横立て四方に柱多の小窓
あり夫が砲を著する處なりと設けあり
 之に強て進入し且死して移し得る事僅の
 兵隊を並けりおりやとの近傍に大なる江濱
 あり或るニヶ所の村に樹りありやとキヤと小

近き村の屋下の如く如く雑種人あり且其
村のダウタイも雑種人あり且一村に江灣
の外部にあり依て西東風の時其反
向の水流も参差して様々なり南北
風の時四五日も或時に波濤海岸を打浪
或は木風を生ずる如く水流も烈なり
りやレキヤレ防御亦ある所毎に海岸を引
揚げ木等を傷む事あり其再と波を

まねん子と云てあり僅か百人斗りの
軍兵にて撞地の道路を掘りて是より
其撞地は^橋なり且りやレキヤレト江灣
の向の山は高き四万フートの懸くをれ海上
の石を燃す事其外の危険も少
く夕ウタイの村に林あり樹木の如く多しこの
山は撞地ありト云はれ其も西東風の時却
りて其山を崩れ得る事あり

人々士民も殊更、名物にて今其手
を附るも、其意あり其島嶼を新衣録せん
所の歐羅巴人あり尚列、名物主なり
事業を為さざる部、其時より
を黙して居りては、

余等、安碇せしむるや、此所、密の山
二里を隔たふ山頭、其人或は、此二人、
の部隊と集聚し、各自、小銃を推し、

陣を據り、敢る、前進せしむる
余軍、其、攻進、其、時、彼等、漸く
余軍、其、山を降り、其、時、
伏せ、其、余軍、其、砲を、
其、後、退けり、其、又、後、
其、追、其、武、其、
其、其、其、見、其、
其、其、其、

身雖之文飾せり且新作之為あ一反
の田地を不括し各廿田地を草を建て
且牧羊を不括し乃余山即之畜飼其
牧羊之數一十四匹を具たり

此土民の支那人の想像を記録せしもの
あり也因て見よ。餘祀の遠せり此土
民猶獸より多怖をくものあり作
士民此種獸を獵をたす餘祀を危険に見せ

抵けたり 愛をんてフオルモサー混雜する余の
番並且不存云云おんりニゲム氏の所知
餘年

代水師提督
アム、エム、べル

夕 秘 有

Vertical columns of handwritten text within a red border, likely bleed-through from the reverse side of the page.



Small handwritten characters or a signature located at the bottom left corner of the page.